

## 第1章 地方創生の方向性に関する基本的認識

### 1. 1 これまでの地域活性化と地方の課題

これまで、地域活性化の取り組みが種々行われてきた。しかし、地方の状況は総じて深刻化している。全国の中山間地域を中心に過疎化が進み、森林、農地等の維持が困難となるとともに、気候変動に伴う豪雨災害が増加するなど、国土保全上の懸念も増している。このような現状の下、「地方消滅」の問題提起もあり、地方創生が国や地方の重要政策課題となっている。

一方、近年、都市部から地方へのI・Uターン者が増加するなど、前向きな変化も現れ始めている。このような前向きな流れを活かしつつ、地方を創生していくためには、従来の単品型・画一型・外来型開発中心の取り組みの反省から、総合性、多様性ある内発的な「地域づくり」が重要になると考えられる。

### 1. 2 持続可能な社会への転換による地方創生

「地方が消滅」しないためには、人々が幸福に暮らしていける経済・生活基盤を持続可能なものとして地方に構築する必要がある。

翻って世界を見ると、地球温暖化、生物多様性の減少等が深刻化し、持続可能な社会への転換は全人類的な課題となっている。その解決には、物質的豊かさに偏重した大量消費文明から脱却して、資源を持続的に利用する、循環型・脱温暖化社会を実現する必要がある。同時に、人と人のつながりの再生、文化や自然の価値の再認識などにより、心の豊かさを実現していくことが重要である。

地方には、再生可能エネルギーなどの自然資源、祭りなどの伝統的な文化資源等、多様な地域資源が存在している。それらを活かした内発的な地域づくりを進め、持続可能な地域を創造していくことは、現代の世界的・全人類的な課題の解決を先導することにもなる。地方において多様な主体的取り組みを生み出し、全国的な流れ、国民的な運動に発展させることにより、我が国の社会全体、さらには世界全体を持続可能なものに転換していくという、ローカルとグローバルをつなぐ視点が重要である。